



## 作新学院大学

人間文化学部心理学コース

**松本秀彦** (まつもと ひでひこ)

所在地：宇都宮市竹下町 908

[http://www.sakushin-u.ac.jp/major/human\\_culture/](http://www.sakushin-u.ac.jp/major/human_culture/)

**Profile** — 松本秀彦

作新学院大学人間文化学部・大学院心理学研究科准教授。2002年、北海道大学大学院教育学研究科後期博士課程教育学専攻(特殊教育講座)単位取得満期退学。専門は障害児認知心理学、生理心理学。



### 作新学院大学について

作新学院大学はJR宇都宮駅からスクールバスで20分のところにあります。緑豊かな自然に恵まれて、映画やドラマの撮影に使用されたこともあるキレイな図書館とキャンパスが魅力です。

本学は現在、経営学部と人間文化学部の2学部により人文・社会科学系の教育研究を行う総合大学です。人間文化学部では「心理学」「社会学」「言語文化」「教育」という四つの視点からヒトを多角的・複合的に学ぶことができます。2年次より将来の目標や進路に合わせて発達教育専攻または人間文化専攻の「心理学」「社会学」「言語文化」コースに分かれます。今年度から小学校教諭一種免許状も取得可能になり、それぞれのコースで、中学・高校教諭一種免許、特別支援学校教諭一種免許、社会調査士、図書館司書、認定心理士などの取得をめざしています。

### カリキュラムの特色

心理学を専門に学びたい学生は2年次から「心理学コース」に所属します。心理学の基礎科目(認定心理士資格に基づく)が、「基礎心理学」「心理学研究法」など6科目開講されています。特に「心理学実験」では一年間にわたって、計10テーマの基礎的な心理学実験・調査実習に取り組みます。どの大学でも学生がレポート作成で最も苦勞する科目ですが、

卒業論文に向けて大きく能力を伸ばせる科目です。

その他に、「学習心理学」「生理心理学」「発達心理学」「臨床心理学」「カウンセリング実習」「障害児・者心理学」「健康心理学」など心理学を網羅する23科目が開講されています。

3年次ではさらに高度な内容の演習科目や、人間文化学部を特徴づける「キャップストーン・コース」を履修します。大学で学んだ知識を地域連携のもとで実際に活用するねらいがあり、学生・教員・地域の方々が連携して地域の課題に取り組む学習プログラムです。本学では下記のプログラムが実施されていて、心理学をどのように社会で活かせるのか実体験を通して考察することとなります。

- 児童養護施設で働く本学OBの心理職員とともに遊びのプログラムを通して子どもたちとふれ合う『児童養護施設で生活する子ども達への支援プログラム』。
- 学校教員の経験が長かった本学教員が企画する『適応支援教室お兄さんお姉さん支援ボランティア』。
- アロマセラピーケアプログラムを学び、県内連携施設などや、東日本大震災で被害をうけた地域でのボランティア活動も行う『アロマセラピーによるケアプログラム』。
- 知的障害者施設の余暇活動への参加を通して、障害者の生活の

実態と施設における活動を知り、家族や本人のニーズを知る『知的障害者施設ボランティア』。

以上のようなプログラムに参加することで、学生たちは地域社会の一員として生きていくチカラや心理学を活用する経験を身につけていきます。

4年次では卒業論文(必修)に取り組み、自分自身で問題を設定し解決ができるようになります。このように4年間を通して基礎的知識の習得から実践まで幅広く心理学の学習を進め、卒業時には認定心理士資格を取得できるようなカリキュラムになっています。

### 心理学教員の専門領域

人間文化学部の心理学専任教員は9名で、それぞれ臨床心理学(伊達)、学校臨床心理学(手塚)、学校心理学(伊澤)、カウンセリング心理学(田所)、応用行動分析学(高浜)、言語心理学(西谷)、健康心理学(福島)、認知心理学(松田)、生理心理学(松本)を専門としています(写真1)。

### 卒業後の進路

人間文化学部の学生の就職先は、教員、図書館司書、公務員、銀行、食品製造業、自動車販売などの民間企業などへ就職するほか、本学大学院心理学研究科へ進学します。県内で就職する学生が多く、卒業後も研究室に遊びに来たり、悩んだときには相談しに



写真1 人間文化学部心理学専任教員。前左から伊澤成男、松田真幸、伊達悦子、西谷健次、後左から松本秀彦、手塚光善、高浜浩二、田所摂寿、福島明子。

来たりと、大学とのつながりを大切にしている学生がとても多いと思います。

### 学生生活

人間文化学部において心理学コースに所属する学生は、心理学以外の社会学と言語文化学の専門科目から16単位分の単位取得が卒業の条件となっているため、心理学のみならずさまざまな分野について学びます。心理学を中心に学びながら社会調査士などの資格を取得することもできるので、社会的視点から社会と人間の心理について考察することが可能にもなります。このように、他大学の心理学科とはひと味違った心理学的センスを磨く時間を過ごしています。

毎日の大学生活では講義を受けるだけでなく、空き時間を利用して楽しんでいるようです。綺麗で静かな図書館で過ごす学生、体育館やグラウンドで友人どうしスポーツをする学生、大学の教員とフリスビーをする学生、学食でガールズトークをして盛り上がっている学生など、のびのびと自由に過ごしています。また、夏には市内最大の花火大会をキャンパスから観ることができたり、毎年行われる熱気球の競技飛行を間近で見ることができたりなど、本学のロケーション

ならではの楽しみ方があります。

### 大学院心理学研究科臨床心理学専攻

大学院は平成18年度に開設、平成23年度に日本臨床心理士資格認定協会による第1種指定大学院となり、県内唯一の臨床心理士養成校として期待されています。人材養成の基本的理念は、子どもから大人までの心の健康をサポートできるカウンセリング技法や心理検査技法を身につけた人材を育てることです。また、認知・生理心理学系科目を充実させることで、発達障害のある児童・生徒の認知の特徴をメカニズムから理解し、療育や特別支援教育で科学的に研究を行うことも可能です。また、本学のユニークな点として脳波研究の実験室が整備されており、脳科学からのアプローチが可能となっています(写真2)。

このように心理学研究科では臨床心理学を中心にしながら、幅広く専門的に学習することで、子どもから高齢者までそれぞれのステージの心理的問題や障害の支援、また家族へのきめ細やかな心理的援助を行うことができる人材を輩出しています。

カリキュラムの中心である臨床心理学実習は特に充実しており、

適応支援教室、児童相談所、病院(精神科)などのさまざまな領域の現場で実習が行われ、第一線の現場の生の状況を知ることができます。今まで学んだ知識をどのように仕事の中で活かすのかといった新たな疑問がわくために、大学院生の問題意識が高まります。また、大学院附属臨床心理センターの実習においては、教員にスーパーバイズされながら実際にケースを受け持ち、心理臨床活動に必要な実践的な能力を習得します。

### 心理学研究科附属臨床心理センター「作新こころの相談クリニック」

大学院心理学研究科の新設にもなっており、附属臨床心理センターが開設され、教育や研究とともに地域社会の貢献活動として相談業務が行われています。また専任教員の指導のもとで大学院生による相談業務、子どものプレイセラピーや学習指導などが行われ、実習施設として活用されています。

大学院生が主体となった積極的な臨床活動のひとつは、発達障害のある児童への学習・社会的スキルトレーニングです。学習の遅れや困難がある児童の小集団学習活動を行うプログラムと、社会場面でコミュニケーションに難しさを感じている児童がゲームで互いに協力し競い合って遊ぶ中から社会性を身につけることを目的としたプログラムの二つによって、実践的な支援技術を習得しています。



写真2 香りによる眠気防止研究の様子。反応時間課題を行っているときの脳波活動を記録しています。